

夕陽會報



第197号

冬のトラピスト修道院



◇巻頭言◇

「感性」と「耐性」

副会長 中 瀬 裕 義

(昭和34年卒)

警察官が被疑者を取り調べている最中被疑者が「メールで答えるから携帯電話を貸してほしい」と求めてきたと言う。嘘のようなそんな話を耳にしたことがある。私が札幌へ転勤した四十二年前、当時の電報電話局に電話の設置を申し込んだところ「空いた回線がないので建築中電話局が完成する二年後まで待つて欲しい」とのことであった。待望の電話が我が家へついた日の嬉しさは今も忘れることは出来ない。今年二月二十六日の北海道新聞の記事に文部科学省の初の（少し遅い気がするが）携帯電話利用実態調査の報告がある。それによると携帯電話所有率は小六・二五％、中二・四六％、高二・九六％、まさに一家に一台の時代から一人一台の時代になった。いつでもどこでも（禁止されている少しの場を除けば）誰もが電話をかけたなりメールを打つという方法で自分の意思を伝えることが可能な時代になった。その結果冒頭の様な事が現実になっているのである。彼らは「メールで饒舌・会えば無口」である。パソコンや携帯でゲームの世界にのめりこむと、現実（リアリティ）界から幻実（バーチャルリアリティ）界に移行していることが解らなくなると言う。そのため幻実が現実味をおびて現実が幻実となり、幻実が現実化する逆転現象が起きてしまう。メールは即相手に着くから便利だとその利用が増えお願ひもお見舞いも手紙にしない人がいる。即時性は短絡的な思考を生み、その過程にある心模様はどこかへ飛散してしまう。そうなるに及んだらば、遅い反応は怒りと攻撃性へと移行しこれがいじめの原因の一つになっているという。こうした即時性を追

い求める人間はいつのまにか、届いただろうか、読んでもらえただろうかと相手の暮らした表情を思い描いたり、返事を待つ楽しみ、お互いの想いを育てる忍耐、じっくりと見届けるやさしさなどの耐性をなくしてしまっている。学校でも会社でも家庭でもメールが飛び交い意思伝達のための時間は瞬時になった。即時性にこだわる者は人間が生きていくうえで必要なやさしさや相手への思いやりそして忍耐力をなくしてしまっている。こうして昨今の世と不安になって来る。こうした昨今の世相を見るにつけ、便利さの影にあらう人間性の喪失に歯止めをかけるのは自分自身であり、現実をしつかり見据え将来自立した大人になるための人間の育成という大命題は教育の世界にかけられた大きな課題であろうと思うのである。

精神科医の香山リカさんはその著作の中で我が国が未熟な大人たちの世界に成りつつあることを憂いている。大人というのは他者から例え認められないとしても自分の信じた道を進むとか、失敗しても自分で自分の事を励ますとか自分を持ち所にして生きていくことが出来ることだと訴えている。いついかなる時も自分の良心や道徳など内面の声に従って分別ある行動が出来ることも当然のこととして述べている。この主張はパソコンやメール万端の今の世界に警鐘を鳴らしているものではないかと私は受け止めている。

母校は教職課程を必修とした最後の卒業生がこの三月に巣立っていった。来年四月には新しい人間地域科学課程を履修した初めての卒業生が創立九十二年目の夕陽会の仲間として加わる。若い彼らが貴重な歴史に学び官界・実業界そして教育者として活躍する未来を願っている。

栄誉に輝く同窓



○瑞宝双光章

叙勲・つつしみて

小樽市 村田 一 夫
(昭和15年卒)

図らずも 叙勲のご沙汰 かたじけなく
至らぬ多く 年かさねしに

後の世に永くつたえん 向井流
志す稽古の 友でありたし

畏くも大君にみこと つつしみて
瑞宝双光章 拝みてうく

師のおよぎ思わぬ日なく 戒めの
きびしき教え 「瀬…水夜話」に

風あらし教えの庭に いくとせの
恩師のみちびき 教友のはげまし

いくばくの余命あるかは 知らねども
心に決めし 道一すじを



○瑞宝双光章

心の古里夕陽会

盛岡市 及川 悌三郎
(昭和16年卒)

昨年七月一日付、高齢者叙勲瑞宝双光章を頂きました所、早速夕陽会橋田会長より懇ろなご祝詞を頂き、六十年前も前の卒業なのにと感激しました。誠に有難うございました。心から感謝致します。

ます。夕陽会の節目々々には出席し昨年の九十年間にも行きました。

私は終戦の年まで北海道現北斗市大野で勤め翌年家庭の事情により岩手に向出、昭和五十六年盛岡市大慈寺小学校長を最後に退職しました。昭和五十九年夕陽会瀬川会長の要請により岩手支部を結成し支部長を十二年間務め、平成十六年退任時には川島会長より感謝状を頂いており

昔宮中の鳩杖の故事もあるので調べてみました。「高齢者叙勲は春秋の叙勲の対象となる条件を備えていながら色々な事情で叙勲されず高齢になった人に八十八歳に際し叙勲するもので、高齢者故に天皇陛下下の拝謁は行われず、勲章の伝達は自宅に向出で行う例が多い」とあり高齢者への温かい処置でした。

函館は私の第二の故郷、夕陽会は心の古里と思っております。

この栄光の原点は夕陽会の存在があつてこそである。

夕陽会という言葉が出る度に必ず思い出されることは、入学時、頭初夜、布団の中で五稜郭駅の列車の汽笛が耳に入り「これから五年間どうして暮らしていくのか」という不安に駆られた。親元を離れた少年の不安からであろう。

十年間の校長生活で二人の後輩を教頭として迎えた。子供の頃、よく歌った「隅田川」の辺りにある月島二小で二十年卒



○瑞宝双光章

白一線の絆を深めて

札幌市 大場 光行
(昭和17年卒)

何よりも楽しみにしていた米寿を迎え多くの方々からお祝いを頂き有難く思っております所、この度札幌市教委より思いがけなく叙勲の栄を頂き、我が人生に優秀の美を飾らせて頂きましたことを嬉しく思います。

数度渡り零下四十度の厳寒でソ満国境を体験、水戸航空通信学校へ将校特別学生情報部とし活躍するも時既に本土は昼夜を問わずの空爆、玉音放送、若手将校の決起等騒然とするも本土復興と落ち着き再び教育の舞台に立つ。

思えば、白一線にあこがれて函師に入学。茜さす臥牛山を仰ぎ、巴湾の波に洗われ、そして亀田の森に育てられて五年間、旧制師範学校の最後の卒業生となつて教育の道に進んだのですが、国家非常時代に道を軍隊に変え、幹部候補生として、仙台予備士官学校、仙台飛行学校と不惜身命の世界に突入。暗黒の玄海難を

勇躍せよ、突破せよ、汝、函師の卒業生なれば!!
白一線、母校の教育制度の変革はあるにせよ、この意気があれば、これからの行手が勇気と行動によつて行手を豊かに切り開いて行く事ができると思う。母校のたくましい発展を祈る者である。



○瑞宝双光章

叙勲を受賞して思い出される数々

東京都 笹野 俊彦
(昭和18年卒)

弦巻君、文京区誠之小では二十四年卒の佐藤弘君。このようなことは東京の人事では困難なこと。要するに校長が幸運であつたのだろう。

誠之小退職してから有志が二十年間「笹野会」と称する会をつくり毎年私を慰めてくれたことは忘れられない。退職後教育新聞の論説委として活躍。「教育基本法を改正せよ」と主張。時の小杉文部大臣に採り上げられ、改正の源流となつたことも忘れられない。

十年間の校長生活で二人の後輩を教頭として迎えた。子供の頃、よく歌った「隅田川」の辺りにある月島二小で二十年卒



○瑞宝双光章

行動する

苫小牧市 高橋 進
(昭和22年卒)

秋の叙勲。会長始め、会員各位の祝意に感激。市の祝賀会では、多くの夕陽会員の温かい祝福に感無量であった。

今「教育一筋の道」を回想。「同行同苦」の元同僚教師への深謝がつきない。

混乱期「筋目を通し」三校で教育局の研究委嘱で管内公開研開催。S二十二年、新制中学校発足。全道初のスピード・スケート部を新設、早朝五時から沼で滑走。多くの国体選手を育て（後年、本道連勝の原動力に）。各地でスケートの講師。道優秀選手のコーチと国体選手選考委員。札幌オリンピックの準備と審判員。国体

○瑞宝双光章

叙勲の栄誉に浴して

釧路町 三浦 晟
(昭和22年卒)

平成二十年秋に叙勲で、図らずも受章の栄に浴しました。早速、夕陽会長様はじめ、多くの方々より、ご鄭重な祝意を戴き。厚くお礼を申し上げます。

顧みると、昭和二十二年の戦後混乱期に母校を卒業し、釧路市・東京都・釧路支庁管内小中学校三十九年余の教職生活でしたが、それを支えたのは、夕陽の師魂とよき人の出逢いによる温かいご指導とお力添えの賜と感謝しております。

新任教師として力量不足を見ぬいておられたのでしょうか。夕陽の大先輩故市原



○瑞宝双光章

民事調停委員をして

仁木町 池澤 章
(昭和23年卒)

平成五年十月一日から十一年九月三十日まで、札幌地方裁判所小樽支部の民事調停委員として六年間勤務した。

扱った事件の八割がサラ金調停事件で他は、交通事故等であった。

サラ金業者から金を貸りて、支払いに困っている人が後を絶たないことを強く感じている。

借りた理由は様々だが、私達は、正常な生活ができるよう、健康に留意し、自分の仕事を反省し、そして、精進しな

○瑞宝双光章

回顧

広尾町 辻田 昭
(昭和23年卒)



この度はからずも、平成二十年秋の叙勲授受の栄に浴しました。まさかと思っていた叙勲が嬉しく家内と涙を流しました。早速夕陽会長をはじめ多くの方により鄭重な祝意を戴き心から御礼を申し上げます。一七二八年愛知県岡崎市に生まれ、まもなく渡道、二人の兄を目指し、昭和十八年北海道第二師範学校に入学し昭和二十三年幕別町立白小小学校を皮切りに広尾町第二小中学校で退職するまで九校四十年に及んだ。また三十三年には交

通事故に巻き込まれ右脚関節の機能を失いとまどい乍らも仲間を支えられ教育への情熱を失うことがなかったのが幸이었다。四十三年からは十勝複式教育連盟、北海道複式教育連盟の役員となり青森県をはじめ釧路・渡島などを訪問したが、どの学校の子どもの澄んだ瞳を目にした時、教育の原点を目にした思いがした。

その後は、大規模の子ども達にも大きな目を向けていくことを誓った。



○瑞宝双光章

叙勲の栄に感謝して

札幌市 川嶋 忠雄
(昭和24年卒)

はからずも平成二十年秋に叙勲で瑞宝双光章授与という光栄に浴しました。それは身にあまる光栄であり感激で一ぱいです。早速、夕陽会会長さんはじめ、同期・同窓の皆さんから御祝辞や励ましの言葉をいただき、本当にありがとうございます。十一月十三日勲記勲章の伝達を受け、引続き夫婦共々皇居へ参内し、天皇陛下に拝謁し、「ねぎらいと励ましのお言葉を頂き、これまた感激の極みでございます。思えば、教師として後志管

内余市町を振り出しに、管内をほぼ一巡しました。その間良き先輩、同僚、後輩に恵まれ、暖い指導を受け力一ぱい生き抜くことができました。今日の叙勲もそうした多くの方々への厚いご支援の賜と深く感謝申し上げます。これから皆様方へ、ご厚情を大切に精進して参りたいと考えております。夕陽会の今後の益々のご発展を祈ります。



○瑞宝双光章

教育とは人を育てること

音更町 石川 守
(昭和29年卒)

この度、身に余る秋の叙勲の栄に浴し改めて多くの方々のご指導ご支援に深く感謝申し上げますと共に、早速夕陽会々長はじめ同窓各位よりご祝意を賜り誠に有難度ございました。厚くお礼申し上げます。

又児童が在籍した初任校での特別教育指導。アイヌという言葉さえ禁句の当時を思う時、現在、自らアイヌ民族の存在と文化の偉大さを誇る姿に感無量です。教職三十六年中の十八年間をへき地複式教育に従事し、道複連の仲間と全道を馳せ、教育の原点ここに有りと確信すると共に、教育者として学ぶところ誠に大きなものであります。

夕陽会と母校の発展とともに会員各位のご健勝をご祈念申し上げます。

育てること」が私の教育信念として定着した気がいたします。
千名余の児童数の中に四十名程のアイ



○北海道教育功績者表彰

皆様の支えに感謝して

北斗市 酒井 充
(昭和46年卒) 北斗市立上磯中学校長

昨年十二月十七日、ホテルライフォート札幌で、吉田一昭渡島教育局長様はじめ、道教委や各教育関係機関を代表する方々のご臨席の下、「平成二十年度北海道教育功績者表彰式」が厳かに行われ、北海道教育委員会橋場昇教育委員長様より表彰状をいただきました。
橋場昇教育委員長様から「長い間ご苦勞様でした。皆様の歩んできた業績をたたえます。この後も北海道の教育の道標を示すよう努力してください」というあたたかい労いの言葉をいただいた時、改めてこの賞のもつ意味と責任の重みを強く感じ、身の引き締まる思いで一杯だっ

たことを覚えております。
また、表彰式前日には、橋田会長様はじめ在札夕陽指導主事会の皆様方からお祝いの言葉や心温まる祝賀の宴を開催して頂き、心からお礼申し上げます。
このような賞は、お力添えをいただきました夕陽会の皆様や多くの教育関係機関・地域の方々のご支援があつてのものであります。
今後とも皆様のご厚情に応えるべく努めてまいりますので、さらなるご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。
夕陽会の皆様のますますのご多幸を祈念し、感謝とお礼のご挨拶と致します。



○北海道教育功績者表彰

苦勞した仲間と共に

函館市 本間 秀昭
(昭和46年卒) 函館市立的場中学校

図らずも、北海道教育功績者表彰を受賞する事ができましたことは、函館市教育委員会をはじめ、多くの素晴らしい先輩や同僚・後輩に恵まれたお陰であるところから感謝申し上げます。
昨年十二月十七日ホテルライフォートで行われた授賞式に参加して参りました。厳肅な雰囲気の中で北海道教育委員会橋場教育委員長より表彰状と記念品をいただきました。

もとより、この様な重い賞を私一人がいただけるはずありません。これまで一緒に力を合わせて教育に携わってきた多くの仲間と一緒にいただいたものと

思っております。特に、生徒指導で苦勞を共にしてきた教職員の方々、同窓会並びに中学校長会の仲間達への評価であり、励みであると捉えております。
表彰式の前日、大変忙しい中、夕陽指導主事等会の方々による「祝う会」を催してくださいました。橋田会長はじめ多くの同窓の方々より心温まる励ましの言葉をいただきました。

これからも、この受賞に恥じないよう努力して参りたいと思っております。最後になりますが、夕陽会のますますの発展をお祈りいたします。



○法務大臣表彰

篤面活動二十年

函館市 佐藤 任

(昭和16年卒)

今回法務大臣表彰の栄に浴したことは、身に余る光栄であります。これは偏えに多くの先輩や同窓の皆様のご指導に依るものであり、深く感謝しております。私は師範学校卒業と同時に太平洋戦争に突入した波瀾の出発でありました。

終戦後の教員生活も、結核休職等により、その後何とか復帰し、小・中学校の勤務を全うしました。

退職後、先輩新明謙治先生のご推薦により、函館少年刑務所篤志面接委員（以下篤面）の仕事に携わることになり、気が付けば、二十数年の歳月を経ておりま

した。

篤面の仕事は、罪を犯した人の社会復帰を補助する、あらゆる施設や職業訓練及び道徳指導、生活習慣の指導です。

篤面の組織は、全国規模であり、各施設の緊密な連絡研究が行われています。

収容者との面談、対話等を通じ、私自身も多くの教訓を得ました。

人間は常に心の奥に多くの矛盾を抱き葛藤している動物であるということであります。

それは、教育の重要さ、生活規範の重要さを私に示してくれました。

○三十年勤続体育指導委員表彰（全国）

熱意とパワーに支えられて

函館市 近野 功

(昭和33年卒)

嘱された体育指導委員の任務であります。

この度、私達は三十年勤続体育指導委員表彰を受けました。昨年度の優良団体表彰に続く全国表彰の受賞ですが、五十名の函館市体育指導委員にとりまして誠の名誉なことと共に喜んでおります。

受賞に当り、ご推薦くださった函館市教育委員会を始め、受賞後の祝電等、心温まるお祝いを頂きました夕陽会本部並びに支部の皆様にお礼を申し上げます。

函館市では「スポーツ健康都市宣言」の理念のもと、市民のための生涯スポーツの振興に努めておりますが、具体的な推進に当たるのが、非常勤職員として委

嘱された体育指導委員の任務であります。一九六一年に制定されたスポーツ振興法に基づいて、当市にも体育指導委員が配置されて以来、それぞれの時代に、多くの先輩教師が指導委員として活躍され輝かしい業績を積み重ねて参りました。

私は、一九九八年に因らずも会長をお願いを受け、現在に至っております。

その間、他の指導委員の熱意とパワーに支えられ、さらに、参加される多くの市民の皆さんに元気をもらい、楽しみながらスポーツの振興・発展に携われますことに、感謝をしているところです。



○三十年勤続体育指導委員表彰（全国）

受賞に思う

函館市 小澤 貢一

(昭和33年卒)

この度の受賞につきましては馬齢を重ねること三十余年、函館市教育委員会の非常勤公務員として体育指導委員を拝命しこの間、月並みな言い方ですが多くの周りの関係者の方々に活かされて今日ありと感謝の念に堪えません。

体育指導委員は昭和三十六年、スポーツ振興法の公布により市町村教委の必置制度として発足しましたが当時は学校体育が主流でありその対極にある社会体育という概念は体育教師を含む体育スポーツ関係者の中でもあまり理解を得られなかった存在と記憶しております。

体育スポーツは訓練、鍛錬を通して青少年の健全な育成のために大変有意であるとの古典的な価値観が優先されオリンピック至上主義を頂点として体力、精神力の向上、過度な勝利主義への偏重などが見られました。

時代が変わって「社会体育」から「生涯スポーツ社会の実現」というキーワードに変化し「誰でもスポーツを楽しむ」「人との交流のツールとしてのスポーツ」「見て楽しむスポーツ」等多様な価値観が存在する昨今、正に隔世の感です。

○三十年勤続体育指導委員表彰（全国）

三十年勤続体育指導委員表彰を受賞して

函館市 絹野 重治

(昭和40年卒)

この度、函館市教育委員会の推薦を受け、「三十年勤続体育指導委員表彰（全国）」を得ましたことを心から深く感謝し、御礼申し上げます。併せて、夕陽会函館支部から祝賀の会にお招きをいただきましたことに厚く御礼申し上げます。

体育指導委員の活動を振り返ってみますと、函館山ハイキング、ハーフマラソン、コミュニティランニング、綱引き大会等のお手伝いが強く心に残ります。

主催事業である三十三回に達した町会交流ソフトバレーボール大会にも関わり、多くの参加者に楽しんでいただいている

ことはとても嬉しいことです。現在は、文科省が奨励している総合型地域スポーツクラブの支援に向け力を注いでいます。平成二十年度に「函館東部地区ふれあいスポーツクラブ」が立ち上がりました。このクラブは、深堀町会、深駒町会、東深堀町会、花園町会、稔ヶ丘自治会の五町会が一体となつて、「町会や地域の垣根を越えて、誰もが自分に合ったスポーツなどを楽しみながら、健康を守り生き生きとした町づくりを目指す」を理念に活動を展開しています。このクラブの一層の発展を願っているところです。



○函館市文化賞
人の支え、結び付きに感謝して

函館市 中村 薫(朝山)
(昭和30年卒)

全く思いもよらなかったこの名誉ある函館市文化賞、身に余る感激の極みである。これも偏に皆様方のご支援の賜と存じ、深く感謝とお礼を申し上げます。

また、早速夕陽会の同窓の皆様から心のこもった祝意をいただき誠に有難度うございます。今後は、この榮譽に恥じぬよう一層の精進をいたす所存ですので、よろしくお力添え下さいますようお願い申し上げます。

顧みるに、私は母校を卒業後、東洋大学三年編入試験を受け合格、故太田鶴堂先生のお力添えもあり、故金子鶴亭先生に入門、二年間の研鑽に励んでいたさ中、

事情あつて急遽、帰函することになったのである。その三日後、北海道教職員採用試験を受け、当時のモデルスクール新川中学校教諭に補するとあいなり「教育の道一筋」山あり、谷あり、波瀾万丈の三十八年間であつたが、研鑽を積み重ね教育実践の向上に努力してきました。退職後、書道界の激しく変化するなか、仲間と共に手を携えながら、書道の本質に迫るべく、信念と愛情をもつて、今後その育成に努めてまいりたいと存じます。書道関係者、夕陽会の函館市支部の皆様様に深甚なる敬意を表しお礼の言葉といたします。



○函館市体育協会 特別功労章
受賞を機に

函館市 福田 肇
(昭和34年卒)

平成二十年春、函館市体育協会創立八十周年記念式で特別功労章を頂きました。その賞状には「永年にわたり体育スポーツの普及振興に尽力され——」と示されておりました。

この栄えある受賞に輝くことができたのは、これまで支えてくれた先輩、同僚のご支援なしでは得られなかったものと思っております、感謝の気持ちでいっぱいあります。

顧みますと、昭和六十一年から理事並

びに常任理事として二十二年間、市民の健康づくりにたずさわり、地域のスポーツ団体の関係者として真剣に取り組んできました。今回の受賞は、私に更に活力を与えてくれたものと思ひ今後微力ながら、自然体でスポーツの素晴らしさ、楽しさを多くの人に知って頂くためにも何らかのお役に立ちたいと考えております。結びにあたり夕陽会の益々の発展と会員各位のご健勝をお祈り申し上げます。



○函館市文化団体協議会 白鳳章
修行無終点

函館市 国井 周明
(昭和40年卒)

絵画団体にも音楽団体にも所属していない私が、思いがけなく「白鳳賞」をいただき、戸惑いながらもたいへん嬉しく思っております。

六十歳を過ぎてから徐々に気力共に充実、指導している絵画だけではなく、古武術(合気柔術・居合道)にも自身の進化を感じるこの頃でしたので、この受章がとても励みになりました。

他に余り趣味はありませんが、好きなことイコール仕事で、しかも文化、芸術・



○函館市文化団体協議会 青麒麟章 北海道書道展準大賞
支えられ、励まされて...

函館市 葛西 広治(青龍)
(昭和63年卒 函館市立北中学校)

北海道書道展準大賞そして函館市文化団体協議会青麒麟章という榮譽ある大きな賞を予期せず頂き、驚きと感激でいっぱいです。

受賞は、函館校で書の世界へ導いてくださった永田青雲先生をはじめ、長い目でおおらかに書作を見守ってくださった夕陽会の先輩、そして刺激的な作品を発表する仲間があつてこそだと感謝でいっぱいです。また、看板に、旗にと積極的

に書を使つてくださった高橋校長先生はじめ北中学校の先生方の温かさで書への理解の深さも本当にありがたい限りです。道展初出品以来、二十数年。これまで

伝統武術という修行無終点の世界に携われることにこの上ない幸せを感じます。高校二年生に時に移り住み、多くの方の暖かい人情に触れ、気候的にも住みやすい函館は私の大切な故郷になりました。函館が歴史ある街、観光の街だけでなく文化、芸術の発信地となっていくことを願つて、皆様のご指導をいただきながら努力してまいりたいと思つています。

に多くの方々に支えられ、励まされての受賞と感謝の思いを一層強くしています。すばらしい環境で書に取り組むことができる喜びと感激を胸に、心新たに一步步歩を進めたいと思います。夕陽書道展等での諸先輩の作品からの学び、自分の作品への厳しい対峙を通じて、一層表現を深め、函館の書を一層盛り立てていきたいと思ひます。また、書くことの楽しさや手書き文字のよさを伝えられる書写学習にも継続して取り組んでいきたいと思つています。今後とも、皆様の変わらぬご指導をよろしくお願いいたします。

○毎日書道展会員賞

第六十回毎日書道展 会員賞を受賞して

函館市 鈴木 大有
(昭和55年卒)

市立函館高等学校



書道科に入学してから書道を始めました。以来三十数年、最高の目標である毎日展会員賞をこの度受賞させていただきました。諸先生・諸先輩そして数多くの仲間達に支えられてのことと感無量、感激しております。また、それと同時に責任の重さに身が引き締まる思いです。

毎日書道展は、今年で第六十回の記念の年を迎えました。戦後復興も間もない頃、新しい国は新しい文化から……の思いからでしょうか。新しい書道展設立に獅子奮迅の活躍をされたのが本会の大先輩、文化勲章受章者金子鷗亭先生です。現代書の探究と書文化振興への強い思いは脈々と受け継がれ、今日我々に続いております。文字は読むことのみならず『見るものに』書くことは書くことのみならず『自分をみつめ対峙し、表現するものに』書とは『どう生きるか』を考える場だと思っております。

微力ではありますが、書文化振興の一助になればと思っております。お世話になった皆様に心よりお礼申し上げます。

会務報告



幹事長
須藤 由司
(昭和52年卒)

《一般会務》

夕陽会創立90周年記念「平成20年度版会員名簿」「90年のあゆみ」(デジタル版)を発刊、会員及び協賛金寄付会員等に送付する。

本間謙二北海道教育大学学長・理事等と5校会長との懇談会に須藤幹事長が代理出席する。

本部会報第196号を発行する。(札幌)

北海道教育功績者表彰受賞を祝う会に橋田会長・中瀬副会長・須藤幹事長が出席する。(札幌)

夕陽音楽祭実行委員会に橋田会長・須藤幹事長が出席する。

杉浦副学長(函館校担当)と母校・同窓会の現状などについて橋田会長が懇談する。(函館)

指導主事等候補者激励会を開催する。(札幌)

吉田洋一北海道教育委員会教育長と5校同窓会長との懇談会に橋田会長が出席する。(札幌)

室蘭市支部懇親会に橋田会長が出席する。(室蘭)

北海道立函館美術館「絵画する心の旅路」三箇三郎展(昭和22卒)開会式に須藤幹事長が代理出席する。(函館)

札幌市支部創立80周年記念式典・祝賀会に安島元会長・川島前会長・橋田会長・須藤幹事長が出席する。(札幌)

楽友会(音楽科同窓会)懇親会に橋田会長が出席する。

《支部総会・懇親会・個展等》

室蘭市支部懇親会に橋田会長が出席する。(室蘭)

北海道立函館美術館「絵画する心の旅路」三箇三郎展(昭和22卒)開会式に須藤幹事長が代理出席する。(函館)

札幌市支部創立80周年記念式典・祝賀会に安島元会長・川島前会長・橋田会長・須藤幹事長が出席する。(札幌)

楽友会(音楽科同窓会)懇親会に橋田会長が出席する。

《支部総会・懇親会・個展等》

室蘭市支部懇親会に橋田会長が出席する。(室蘭)

北海道立函館美術館「絵画する心の旅路」三箇三郎展(昭和22卒)開会式に須藤幹事長が代理出席する。(函館)

札幌市支部創立80周年記念式典・祝賀会に安島元会長・川島前会長・橋田会長・須藤幹事長が出席する。(札幌)

楽友会(音楽科同窓会)懇親会に橋田会長が出席する。

特別支援学校支部総会・懇親会に須藤幹事長が出席する。

夕陽指導主事等会新年懇親会に須藤幹事長が出席する。(札幌)

高等学校支部総会・懇親会に橋田会長が出席する。(札幌)

数学科昭和49年卒同期会に祝意を表す。(札幌)

青森西北五支部総会・懇親会に須藤幹事長が出席する。(札幌)

東京首都圏支部合同懇親会に橋田会長・須藤幹事長が出席する。(東京)

後志支部受賞祝賀会・退職激励会に橋田会長が出席する。(余市)

網走連合支部総会・懇親会に須藤幹事長が出席する。(温根湯)

胆振連合支部総会・懇親会に土谷副幹事長が出席する。(室蘭)

岩手支部総会・懇親会に橋田会長が出席する。(花巻)

函館市支部顧問会議に橋田会長・須藤幹事長が出席する。(函館)

日高支部総会・退職激励会に橋田会長が出席する。(新ひだか)

日胆ブロック会議(胆振連合・室蘭・苫小牧・日高支部)に花田副幹事長が出席する。(苫小牧)

苫小牧市支部退職激励会に花田副幹事長が出席する。(苫小牧)

渡島支部支部長・幹事長会議に須藤幹事長が出席する。(函館)

渡島支部支部長・幹事長会議に須藤幹事長が出席する。(函館)

檜山支部総会・先輩を送る会に小笠原副幹事長が出席する。(函館)

函館市役所 北海道教育大学函館校卒業生懇親会に橋田会長・須藤幹事長・土谷副幹事長が出席する。(函館)

函館市支部受賞祝賀会に橋田会長が出席する。(函館)

楽友会新会員歓迎会に橋田会長が出席する。(函館)

《支部総会・懇親会・個展等》

室蘭市支部懇親会に橋田会長が出席する。(室蘭)

北海道立函館美術館「絵画する心の旅路」三箇三郎展(昭和22卒)開会式に須藤幹事長が代理出席する。(函館)

札幌市支部創立80周年記念式典・祝賀会に安島元会長・川島前会長・橋田会長・須藤幹事長が出席する。(札幌)

楽友会(音楽科同窓会)懇親会に橋田会長が出席する。

《支部総会・懇親会・個展等》

室蘭市支部懇親会に橋田会長が出席する。(室蘭)

北海道立函館美術館「絵画する心の旅路」三箇三郎展(昭和22卒)開会式に須藤幹事長が代理出席する。(函館)

札幌市支部創立80周年記念式典・祝賀会に安島元会長・川島前会長・橋田会長・須藤幹事長が出席する。(札幌)

楽友会(音楽科同窓会)懇親会に橋田会長が出席する。

寄贈図書を紹介

「函館俳壇史録」

函館俳壇史貴研究会
編集者代表 畠山 慶一氏
(昭和19年卒)

本書は、平成十年の函館俳句協会創立十周年記念行事の一つとして、発行された「函館俳壇史」、そして、平成十五年に発行された「函館俳壇史」の先達俳人と俳句」について、まとめ発行したものであります。目次を見ると、函館俳壇史の変遷が理解でき、歴史的にも、価値の高いものであることが感じられます。

項目は、

- 一、函館俳壇史の概要
- 二、黎明期の結社
- 三、胎動期の結社
- 四、蹊成期の結社
- 五、俳句協会の創立と活動
- 六、創設の俳壇・句会・結社
- 七、現各俳壇・結社の結成
- 八、函館創設の俳誌
- 九、俳誌・句集の発行
- 十、函館市および近郊の句碑
- 附、郷土俳縁叢話

よりなっており、函館俳壇史の概要では、道南俳壇の草創から平成の結社までが詳しく紹介されており、俳壇の歴史的な動きが北海道の道南の地でも活発に活動されていたことが記述の中から、よく理解することができます。

(昭和49年卒 情宣部 伊勢 昭記)



新井奥邃門下の偉人の足跡 函館師範・和田校長と函聾・佐藤校長

特別支援学校支部長 島津 彰
(昭和48年卒 函館聾学校校長)

函館師範学校の初代校長・和田喜八郎先生と函館聾学校の五代校長・佐藤在寛先生は思想家・新井奥邃(直筆の書、函館中央図書館にあり)の門下生であり、函館で交流をもった足跡を紹介します。

一、函館と新井奥邃先生

二人に思想的影響を与えた新井は、仙台藩の武士の子として一八四六年に生まれ、二十二歳の一八六八年(明治元年)に榎本武揚の配下として五稜郭に入城します。その翌年に、函館ハリストス教会のニコライ神父と出会い、キリスト教に開眼します。五稜郭開城後の一八七一年(明治五年)に森有礼(初代文部大臣)の私設秘書としてアメリカに同行し、五年の留学予定が三十一年間に及びます。その間、キリスト教神秘主義の精神実践家のハリスの下で、瞑想と労働の日々を過ごします。

一八九九年(明治三十二年)に五十三歳で帰朝し、東京に謙和舎を開設し、田中正造(足尾鉾毒事件で天皇に直訴)を応援するなど、一九二二年(大正十一年)に七十七歳で没するまで「聖哲」と称され後進の指導に当たります。次に、新井との師弟交流を概観します。

二、和田喜八郎先生の師への敬慕

和田喜八郎先生は、一八九六年(明治

二十九年・二十五歳)に東京高等師範学校に入学した後、帰朝間もない新井の門をくぐり教えを受けることになりました。さらに、清国(四川省成都高学堂)より帰朝後の一九〇七年(明治四十年・三十六歳)七月より翌年の五月まで謙和舎に仮寓します。

その後、函館師範学校の初代校長として一九一四年(大正三年二月・四十三歳)に着任し大正八年(四十八歳)まで師範学校の基礎を築きます。新井への敬慕は新井没後の十周年記念会(昭和六年)の名簿に『和田喜八郎(秋田市保戸野川反)』(*保戸野は秋田師範学校の所在地)【新井著作集第八巻】とあり、また晩年には『枕元に高く積まれた書物の中に「奥邃語録」奥邃広録があった」と長男が語っていることから【中島修三著・和田喜八郎】終生変わらぬ敬慕の念が伺えます。

三、佐藤在寛先生の師への畏敬

佐藤在寛先生は、一九〇三年(明治三十六年・二十七歳)に編集をしていた教育雑誌「実験教授指針」の関係者の繋がりで行新井と初めて出会い、その年の十一月発行の二巻十一号より新井の言葉(十一月号は「戦争は罪悪」)を掲載し始めます。その後鶯谷女学校(東京)の教頭を辞し、新井門下の和田先生をつてに、一九一六年(大正五年十月・四十一歳)

に来函し(東京を離れる際に、新井より在寛の号をおくられる・本名・政次郎)困窮していた函館訓盲院(函館聾学校の前身)の五代校長として一九二二年(大正十一年五月・四十七歳)に着任し、一九五〇年(昭和二十五年三月・七十四歳)までの二十七年間に及ぶ発展の原動力の任を果たします。

新井への畏敬は、記念会の企画や墓碑を作る際の責任を果たすなど死後も続きます。もつとも心に残るのは、佐藤先生の奥様が七人の子どもを残し夭折した時の新井の文章で『世人皆死す。・不順序甚だ多し。・予が筆動かず、舌亦正しからず。・』(永島忠重著・新井奥邃先生)とあり、師弟愛の極みです。

四、和田・佐藤両先生の交流と教育実践

佐藤先生が和田先生について触れた文章が一日一言(函館毎日新聞・大正八年連載)【佐藤在寛・新聞論談集：佐藤在寛先生顕彰会】の中に『和田師範(1)』(7)のタイトルで残っています。和田師範(3)に『師範学校といえ、一定の型があり、・一種異様ないやな風があるものです。それが函館師範に限ってないのです。・学生演説会を催した時の如き函館師範の生徒は寧ろ政界の志士とも見るべき熱烈の態度を見せたのです。・師範生をして自由思想を懐かしむる事斯くの如きは全国中函館師範唯一校だと思います。如こう而して之は正しくあなたのお陰です。・』とあります。(7)には『私は函館師範の為北海道の教育の為、また地方一般の文化の為あなたの南行を惜しむ者ですが、一面又私自身の為

におしめます。・』とあり、沖縄師範学校に転任することへの寂しさが、七編全てににじみでています。

二人の交流がいかにかりであつたかは図り知ることは出来ませんが、二十歳後半に若くして偉大な思想(謙和舎・謙は人を入れる・謙は己に勝つ・謙は和を成す)に触れた同志として「肝胆相照らす」ではなかったかと推測できます。

このことは、教育実践からも知ることができます。和田先生は当時としては新風を吹き込むべく、全国に先駆けて郷土教育の学習のための「北海道室」を設けて実践を行いました。これは、全国の師範学校に「郷土室」の設置を求めた十数年前のことです。教育者としての品格や偉業については、「夕陽会報」(一〇〇・一〇九・一五三号)に大先輩の記載があります。

佐藤先生は道立に移管するまでの茨の道を歩き、ヘレンケラーを函館に迎えるなど偉業を成し遂げ、北海道文化賞を受けています。実践力のあつた二人です。想うに今の教育界は教育哲学は陰を潜め、本質論無しの教育論議に追われる日々です。二人から学ぶことは、教師自らが「教えるだけでなく、師としての意義」を考えることであり、「人民蕃殖」の現代的な解釈にもつながると考えます。和田先生は奇しくもベスタロッツの誕生日に葬儀があり、墓碑には「函館師範学校卒業生有志資して・」とあり、その遺徳が偲べれます。在寛先生の墓は、立待岬の側にあり、本人の自戒を込めた「大儀滅私親」の碑の側に、臨終の一言「ただみ心のまま」と刻まれています。



夕陽会札幌支部創立八十周年 記念事業にあたり

支部長 三橋 誠司
(昭和46年卒 札幌市立平岡中学校長)

平成二十年十二月六日の午後、札幌サンプラザの二階会場は緊張感に包まれていました。北海道教育大学夕陽会札幌支部創立八十周年記念式典・講演会・祝賀会開催の時間が迫り、参加される皆様の姿が多くなってきました。足掛け四年の時間を経て準備してきた「夕陽会札幌支部創立八十周年事業」の開始です。

話は、遡りますが、私ども夕陽会札幌支部は「創造し行動する夕陽会」のもと、「キラリ光る夕陽会」「群れ集う夕陽会」という支部活動の信条を掲げて、会員相互の絆を深めてまいりました。

しかし、ここ数年は社会情勢の変化や世代の交代により、会員数の減少や同窓会に対する意識の変化に伴い同窓会のあり方に危機感を抱いてまいりました。このような状況の中で、長年活動してきた札幌支部の歴史はどのようなものだったのだろうかという思いから、平成十五年に、当時の支部長を中心に「札幌支部史を探究委員会」を立ち上げました。

調査を開始した直後に大きな陰に突き当たりました。「札幌支部の創立年」が明らかでなかったのです。この「札幌支部創立年」を特定することに困難を極めました。調査を開始したものの資料は散逸し、歴史を知る方々が少なくなる中で、大先輩宅への訪問を重ね、函館校本部資料館に幾度となく出向き、情報収集活動を続けました。

調査の結果、夕陽会札幌支部は昭和三十

年に支部が創立され、定山溪において、初の会合を開いたという支部沿革年表の存在が確認されました。我々は、この年を創立年と定め、この度の「北海道教育大学夕陽会札幌支部創立八十周年記念事業」を企画し、記念式典、記念講演会、記念祝賀会の開催と記念誌発行の運びとなりました。

このような事情から、当支部にとって周年記念事業を開催することは初めての経験であり、準備委員会から実行委員会へと、会合を重ね続けた二年間でもありました。

記念式典

札幌サンプラザに於ける緊張感はこのような事情があり、会員それぞれが八十周年への思いを込めながら式典の開始をまわっていました。

細矢ともえ
(昭五三卒)

の司会、田中幹事長の開式の辞に続き、三橋支部長の先導で来賓の皆様が入場されました。本部より橋田恭一会長、川島孝夫前会長、安島進元会長、



そして須藤由司幹事長のご来臨を賜りました。また当地からは、札幌市教育委員会北原敬文教育次長様をはじめ、他同窓会支部長様、夕陽会道央ブロックの支部長にご臨席を賜りました。橋田会長は今後の夕陽会のあり方に触れ「函館校の多くの卒業生が札幌に集まります。札幌支部の一員として温かく迎えてやってほしい。」とのお言葉がありました。

また、北原次長におかれましては「夕陽会は札幌の教育の重要な担い手であり、今後の更なる発展を期待しています。」との励ましのお言葉を頂きました。

多くの皆様方からの祝電が披露され、八十年という歳月の重みと、先人のためまぬ努力とご苦勞を感じつつ、無事式典を終了することが出来ました。

記念講演会

式典に引き続き、記念講演会を開催致しました。講師は本会OBである原子修氏でした。

原子氏は昭和三十年に函館分校を卒業され各地教育局の指導主事、社教主事等を歴任されています。また、北海道文化奨励賞をはじめ多くの賞を受賞されています。

現在は詩人、童話作家として活躍されています。当日は「詩心・童心・人心」と題してご講演いただきました。情緒豊



かな語り口に、人間として、また教育者としての原風景に触れることができ、心癒される一時を過ごすことができました。

祝賀会

一五〇名が集う札幌サンプラザは本会初の八十周年を祝う喜びと期待による熱気に高まっていました。笹原彰夫副支部長の開会の言葉により、夕陽会札幌支部八十周年記念祝賀会が開幕し、亀山ひさ(昭五四卒)の指揮のもと夕陽賛歌が響き渡り、八十周年を祝う思いに会場が一つになりました。



支部長挨拶に続き、橋田恭一会長、杉浦清志北海道教育大学副学長(函館校担当)よりお祝いのお言葉を頂きました。宴会に先立ち鏡開きが行われ、「三、二、一」の掛け声と共に会場が拍手で包まれました。夕陽会顧問、安島進元会長のお元氣な祝杯の発声により開宴となりました。昭和十八年卒から平成十九年卒まで年代を超えた交流がなされ、札幌支部の明日へのエネルギーを感じた瞬間でした。宴も佳境に入り恒例の寮歌の大合唱で会場を巡り、高石晃宏(昭五九卒)のエールで大いに会場が沸き返りました。

和やかな余韻が覚めない中、さいごの乾杯を川島孝夫前会長に締めていただき、祝賀会も成功裡に終えることができました。

函館市役所 北海道教育大学函館校卒業生懇親会 開かれる

ここ数年、何かの場面でよく、「市役所に、百名以上の卒業生が居るさ。」(本部組織部・函館市支部調べ)と話題になっていた。函館市役所勤務の函館校卒業生が集うことはないのかな…。

平成二十一年二月十八日(水)、函館市内ホテルにおいて、函館市役所勤務の母校卒業生三十八名と大学一名、本部三名の参加により盛大に開催されました。

市役所からは各年代層にわたって参加されました。大学より、杉浦清志副学長(函館校担当)所用のため、長谷昭教授・函館校就職支援センター長が参加していただきました。本部より橋田恭一会長、須藤由司幹事長、土谷敬副幹事長・組織部長が参加しました。

会の冒頭、長谷センター長が挨拶に立ち、函館校の人間地域科学課程の現状や卒業生の就職状況と支援の現状について、資料により説明されました。その中で、現役学生、卒業生に対して市役所職員の皆さんの応援を大いに期待していることが話されました。

次に橋田会長は、同窓会の目的について話し、会員(卒業生)の親睦・資質向上と母校支援について触れ、特に、学生支援、さらには地域貢献において、函館市役所勤務の卒業生に力を貸してほしいと訴えました。

多賀谷智教育委員会教育長(昭和四十五年卒)の祝杯の発声で開宴し、先輩、同期、後輩、研究室、部活動、大門・五稜郭のことが各テーブルで話題が大いに

盛り上がり、和やかに宴が進行した。

テーブルスピーチでは、若手、特に、平成年代卒業生が次々と登壇し、懐かしい話題や後輩への思いを話していました。

途中、幹事長より同窓会の現状や九十年の経緯が紹介され、「ぜひ、同窓会に入会を」と、会報・ビジュアル版九十年史・名簿を記念に贈呈しました。

宴もたけなわ、の乾杯は函館校卒業生有志代表・函館市理事小柏忠久氏(昭和四十六年卒)が、学生時代の思い出や縁遠かった夕陽会への思いを切々と話され、橋田会長とがっちり握手されたのが印象的でした。「来年もこの会をやりましょう。やります。」の声がこちらこちらから聞こえていました。

現在 函館市役所には百名を越す卒業生が在職し、活躍しています。今後とも同じ職場にいる多くの皆さんが、母校を同じくする同窓生として、交流を深めるとともに、同窓会「夕陽会」に関心をもちていただき、さらに、母校「函館校」と学生の応援をしていただけることを願っております。

このたびの懇親会の開催に当たり、準備・企画段階から当日の運営まで労を執ってくださいた清水廣美生涯学習部次長(昭和四十七年卒)・辻喜久子保健所健康づくり推進室長(昭和四十九年卒)・堀田三千代生涯学習部文化振興課長(昭和五十八年卒)には大変お世話になりました。

(幹事長記)



首都圏ブロックだより

東京支部幹事長 相川 哲也

(昭和55年卒 大田区立矢口東小学校長)

昭和五十五年に神田にある「華福」という中華料理屋で行われた夕陽会東京支部総会に参加させていただいて以来、早いもので三十年近くの年月が経ってしまいました。毎回の会には、寮歌を高々と歌い、寮で四年間過ごした者として、会に参加するたびに、夕陽会員であるとともに桐花寮生であるという自覚を新たにしました。当時は五十名以上の諸先輩方の出席があり、酒を酌み交わしながら、教師の心構えやこれからの教育のあり方などを気さくに話していたことが、昨日のことのように思い出されます。

昨年度より、東京支部の幹事長という大役を前支部長の奈良先生より仰せ付けられ、高橋支部長の下、支部の活動が少しでも前進するよう微力を尽くしております。しかしながら会員の減少に伴い、年二回の総会及び懇親会に参加する夕陽の仲間も、少なくなってきたのが現状でした。このことは東京支部だけではなく、各首都圏支部でも同じ状態でした。

そこで、本部からも助言をいただきながら、杉本千葉支部長や高橋東京支部長などと話し合い、「一度、首都圏合同の懇親会を行って、会員の掘り起こしながら、親睦の輪を広げていこう」という結論に達しました。その結果、多くの方のご尽力をいただきながら、今年の一月十七日に夕陽会首都圏支部の合同懇親会を開催することができました。

当日は、本部から橋田会長様や須藤幹事長様のご臨席を賜るとともに、東京都や千葉県は勿論、神奈川県や埼玉県、山梨県からも卒業年度を越えて、夕陽の仲間である二十六名が会場に集うことができました。その中で、各支部や各県の情報交換や本部の情勢などを交流し合いました。その後は、卒業年度に関係なく、恩師の話をきっかけに、昔話に花を咲かせることができました。またこれを機に、首都圏合同の総会を開催しようという気運も高まり、六月には、第一回合同総会を開催する方向で計画を進めております。

会で歌う歌詞が、「巴湾の水の精をくみ…」という寮歌から、「拓北の熱き想いに…」という夕陽讃歌に変わりつつありますが、今回の合同懇親会に参加してくれた方々の想いを聞いていると、母校を愛する気持ちは、いさかも変わらないうことを痛感いたしました。幸いにも、平成卒業の若い会員も複数参加してくれました。この若者たちとともに、これからの支部活動を運営し、夕陽の絆をより強固なものにしていきたいと考えております。

最後に、本部より何度となく東京の地に足を運んでいただき、各支部発展にご支援を頂いた方々や、支部の発展に尽力をされた諸先輩に深く感謝申し上げます。

支部の歴史をふりかえって



夕陽魂をたぎらせて！

根室支部の更なる躍進を願って

根室支部長 小野寺 宏 二
(昭和53年卒 羅臼町立羅臼小学校長)

道東・根室の地には、今日も日本で一番早い朝陽で一日が始まり、日本で一番早い夕陽で一日が終わります。

夕陽会根室支部は、北方領土の玄関口、根室市・人口よりも牛の数が多い別海町・根室の空の玄関、中標津町・鮭の町、標津町・世界自然遺産の羅臼町の一市四町に在住する同窓生で構成されていますが、現在の現職会員は、四十数名です。八十年記念時の半分にまで減少しました。母校の改革や少子化の影響による定数減などにより、後に続く同窓の教職員増は、あまり期待できず、先行きは大変心許なく感じてしまいます。

今でこそ、道路網が発達し、どこに住んでもどこで仕事をしていてもさほど変わりありませんが、三十年以上も前に戻れば、過酷な自然条件や生活環境の下で、根室に育つ子ども達のために身を粉にして尽力する姿を想像すると、強く心を打たれ、頭の下がる思いです。ある年には、卒業したばかりの同窓が二けた近くも採用された時期もあったと聞きます。しかし、五年ぐらい経つと道南方面に戻られたようです。しかし、この地で家族を持ち、教職に身を投じた先輩諸氏は、まさしく夕陽魂と軌を一にしている辛苦のエキスなのではないかと思います。この度、縁あって当地へ教職に就いて

からまだ日も浅い希少価値の若干夕陽会員。その不確かな教師力を携えつつも若さと情熱と無限の可能性を秘めながら「霧も深い情けも深い、根室住み良い人ばかり」と盆うたにも歌われる風土に包まれた中で、当支部としての中長期的な懸案課題や解決策等が前向きに見えてきそうな気がします。

会員数の減少は、当支部ばかりではなく、全道的にも会員数の減少に限りなく歯止めのかからない傾向でもあり、誠に寂しい限りです。かつて、二十〜三十年前ころには、当支部も例外なく多数の管理職や行政職を連ねた全盛の時代がありました。その後、退職と同時に当地を去られた先輩諸氏もおられました。概ね世代交替に拍車がかかったうねりが数度あり、現在に至っています。

一方、いわゆる「同窓意識」が全く眼中にない中堅層が依然横ばい状態であることも厳しい現実を裏付けています。とは言え、当該の会員が何かと教頭職へ昇任した後、当支部の会務等に対しては、極自然体で協力姿勢を積極的に示してくれることでいちの望みとかみしめています。当管内管理職登用数の内、夕陽会員はここ数年において何かと横ばいで推移している状況です。しかし、教頭候補に絞ってみると誠に心許なく、極めて慢

性的な後継者不足に陥っていると言わざるを得ないのです。現時点での支部会員の年代別構成では、二十才代は二〇%、三十才代は三七%、四十才代は二三%、五十才代は二〇%という状況にあります。やがて運営面での跡継ぎ役となる中堅層に期待をかけているだけに、いささか複雑な面持ちであります。

当支部では、十年前と変わらぬのスタンスで「活動の活性化」を目標に掲げています。それには、リーダー役の管理職を一人でも多く、なるべく途切らせず輩出し続けて参りたいというささやかな理想の追求でもあります。昨今、新会員を温かく囲む新年度総会や懇親会での交流企画等では、飲酒と交通手段等の相關関係から益々厳しい社会的制約の背景が潜み、何事につけてやりづらい一面でもあります。さらに、会報「函友ニムオロ」の発行では、若い世代の声や活躍ぶりなどできる限り集めるよう努めております。



平成二十年度 研究助成報告

今年度の研究会・研修会等への助成実績がまとまりましたので、お知らせします。
(研修部)

- 北海道教育発祥の地より学ぶ
- 北海道作文教育研究渡島・函館大会
- 白神小学校公開授業研究会
- 空知支部教育講演会
- 附属函館幼稚園研究大会
- 附属函館中学校教育研究大会
- 附属函館小学校研究大会
- 十勝東部方面複式教育研究大会大樹大会

- 小樽支部夏季研修会
- 石狩支部研修会
- 石狩支部特別企画
- 「ふれあいトーク2008」
- 北海道教育大学函館学校教育学会
- 上川支部研修会
- 函館市立弥生小学校公開研究会
- 十勝巴湾会・帯広中堅教師学習会
- 豊頃町立豊頃小学校公開研究会
- 岩手支部総会北上集会
- 第二回北海道エネルギー環境教育研究大会

- 函館市立駒場小学校公開研究会
- 小樽算数・数学教育冬季学習会
- 小樽支部冬季研修会
- 北海道教育大学附属特別支援学校公開研究協議会



釧路支部だより

釧路支部幹事長 鳴海 厚
(昭和58年卒 白糠町立白糠中学校教頭)

釧路湿原では甲高いタンチョウの声が鳴り響き、幣舞橋の向こうに大きな夕陽を見ることのできる道東の地釧路も、各地の夕陽会の方々と同じ、穏やかな新春を迎えることができました。

さて、一月二十四日に行われました新年交礼会を皮切りに、釧路支部も平成二十一年の活動をスタートさせました。

嬉しいことに平成二十年秋の叙勲において、当会会員であり大先輩でもある三浦晟先生(昭和二十二年卒)が教育功勞で瑞宝双光章を受章されました。今回、そのお祝いを兼ねて新年交礼会を開催したところ、多くの会員の方々にご出席いただきました。私が当支部の幹事長を任

されようになつてから二人目の受章となりましたが、釧路支部をリードしてこられた先輩の皆様の多大なる功績にただただ頭の下がる思いです。

三浦先輩の時代は釧路に師範学校が無く、教員になるために夜汽車に揺られながら函館の師範学校に向かわれたと聞いております。また、懇親会などで当時の話を度々伺いましたが、今からは想像できないほどのご苦勞があつたそうです。

このように多くの先輩が築かれた釧路支部の輝かしい伝統を新しい世代へと引き継いでいくのが私たちの使命だと思っております。

釧路支部は釧路管内一市七か町村を網

羅し、現在の会員数は七十八名(校長三名、教頭四名、大学教授一名、行政一名)です。当支部の中心となつて活躍された先輩の方々がここ数年の間、相次いで退職される一方、新卒や他管内からの異動者等、新会員の数が一、二名程度と年々、減少の一途をたどっております。また、活動に積極的に参加する会員の数も少なくなつてきておりますが、「古くて新しい出会い」をキャッチフレーズに活動への積極的な参加を促しております。

当支部の主な事業は四月の釧路支部総会・歓迎懇親会、十一月の道東ブロック会議参加、一月の新年交礼会・退職激励会や若者の集い、女性の集い等となっております。昨年の道東ブロック会議は隣の根室支部主催のもと中標津町で行われましたが、その席で本部の橋田会長様、小笠原副幹事長様を始め、道東各地の夕陽の仲間と懇親を深めることができました。

今年の道東ブロック会議は釧路支部主催ということと、たくさんの方々にお越しいただくよう準備を進めて参ります。

昨年の漢字は「変」でしたが、釧路支部でも新しい活動を生み出す「変化」の年であり、「不変」なる「夕陽魂」を若い世代の会員に引き継ぐことのできる年にしたいと思っております。夕陽会員の皆様方どうぞよろしく願ひいたします。

私の手元に平成十四年三月発刊の「夕陽網走八十年の軌跡と創造『朔風』」と題する網走連合支部の八十年周年記念誌がある。『朔』は北の方角を意味し、北の風すなわちオホーツク海の自然を内意として名づけられています。記録の散逸による資料不足、情報取材の困難さなど数々の劣悪な条件の中で昭和二十三年卒の増子先輩が作成委員会の長となり二年の歳月をかけて作り上げてくれたものです。当時の横田連合支部長(昭和四十二年卒)が巻頭言で次のように述べています。『母なるオホーツクの大地、父なるオホーツク海を望み、悠久なるオホーツクに我が夕陽会が教育の鋳を入れて八十余年。爾来、人と大なる調和を求め社会形成の大幹をなす教育の場は八十路の年輪を刻み続け今、將に飛躍の音とともに「朔風」を皆様にお届けすることが出来ました。本刊は教育の変遷と夕陽会網走連合支部の活躍を正確にたどりつつ、往時の教育を語り、偲び、感激を綴つて八十路の足跡を記し、未来への架け橋とすべく発刊する』

私は、この記念誌をいつも手元に置き経済的にも、政治的にも苦しかった時代、そして地理的に決して恵まれていないこのオホーツク斜面で子供達の教育に情熱を持って取り組み、創造性豊かな教育実践を残された諸先輩の足跡を省みて、自分自身に今何が出来るか、何をしなければならぬのか、日々自分に問いかけることにしています。

さて、本支部はその地理的な条件から網走、北見、紋別、遠軽の四支部に分けて活動し、会員もOB四十名、現職も百二十名を越す大所帯となつています。管理職も校長が七名、教頭が八名。教育局の指導主事も三名の配置となつています。本支部は、一月末の総会に始まり、新会員の歓迎会をかねた研修会、若手研修会、中堅研修会と年齢に応じた学習会を開催している。特に若手による『平成の会』も立ち上がり親交も深めている。又、総会も、型どおりでなくても、という意見もあり、レポートの発表という新たな取り組みも行っている。私が若かつた頃、総会に出ると若い仲間の出席が少なく、居心地の悪かつた思い出があるが、ここ数年若い会員の出席も多くなり楽しい大懇親会になつています。懇親会の最後を締めくくるのは、宴席の回りを歩きながらの寮歌斉唱。改めて同窓の絆を確認できる場となつています。

私達は単に旧交を温める場としての夕陽であつてはならないと考える。今日の教育環境を取り巻く時代の閉塞感の打開を目指し、会員の自己実現を図る夕陽会、その為に行動する夕陽会を目差したいと考えている。

網走連合支部長 浪岡 康二
(昭和48年卒 北見市立中央小学校教長)



網走連合支部だより

網走連合支部長 浪岡 康二
(昭和48年卒 北見市立中央小学校教長)

さて、本支部はその地理的な条件から網走、北見、紋別、遠軽の四支部に分けて活動し、会員もOB四十名、現職も百二十名を越す大所帯となつています。管理職も校長が七名、教頭が八名。教育局の指導主事も三名の配置となつています。本支部は、一月末の総会に始まり、新会員の歓迎会をかねた研修会、若手研修会、中堅研修会と年齢に応じた学習会を開催している。特に若手による『平成の会』も立ち上がり親交も深めている。又、総会も、型どおりでなくても、という意見もあり、レポートの発表という新たな取り組みも行っている。私が若かつた頃、総会に出ると若い仲間の出席が少なく、居心地の悪かつた思い出があるが、ここ数年若い会員の出席も多くなり楽しい大懇親会になつています。懇親会の最後を締めくくるのは、宴席の回りを歩きながらの寮歌斉唱。改めて同窓の絆を確認できる場となつています。

私達は単に旧交を温める場としての夕陽であつてはならないと考える。今日の教育環境を取り巻く時代の閉塞感の打開を目指し、会員の自己実現を図る夕陽会、その為に行動する夕陽会を目差したいと考えている。

網走連合支部長 浪岡 康二
(昭和48年卒 北見市立中央小学校教長)

支部だより



道東ブロック研修会

根室支部長 小野寺 宏 二
(昭和53年卒 羅臼町立羅臼小学校長)

今年は、当支部が当番の道東ブロック研修会が中標津町を会場に開催されました。

この会は、道東五支部四地区の持ち回りで毎年実施し、各支部から役員を中心に集まり、研修や旧交を深めています。

当日は、橋田 恭一 本部長様、小笠原 章人 本部副幹事長様のご臨席を賜り、研修及び懇親を深めることができました。お二人には、激励の言葉や母校のお話をたっぷり聞かせていただき、しばし時を忘れて遅くまで飲み明かしました。

また、研修会で見ていただいた出来たてホヤホヤの九十周年記念DVDも大変素晴らしい、参加者一同見入っていました。

開催に当たり、当番支部としては、受け入れるのに管理職だけでは寂しいと思い、中堅層に声をかけましたが、四十代の会員が「普段は義理を欠いているが、こういう時ぐらいいは、お手伝いします。」といってかけつけてきてくれたのには、びっくりするやら、感謝するやらで大変うれしく思いました。

それぞれの年代が、それぞれの立場で、それぞれの場所で活躍し、いざというときは、かけつけてくれる。やっぱり同窓

です。いろいろな説明や説得が無くて、同窓が困っていたら、手を挙げたら、「なんとかしよう」、「肌脱ごう」とがんばってくれる姿や心意気に、何かしら熱いものが込み上げてきました。

まだまだ捨てたものではありません。毎年の支部総会に顔を出さなくても、案内の返事がなくても、ちゃんと見えない糸で結ばれているのです。案内を受け取った会員は、その時は、顔をしかめるかもしれませんし、「関係ないし」と思うかもしれませんが、「同窓」は、いざという時は、頼りになります。また、逆に、頼りにされるような支部運営をしなればならないと思います。

会員は、みなさん大変忙しいです。顔も知らない人から「集まりに出て下さい。」「会費の納入をお願いします。」と突然送られてきても「はい、わかりました。」とはなりません。振り込め詐欺まがいの行為としか思われません。是非、実際にお会いし、顔を合わせ、言葉を交わして、絆を深めたいと思います。

会員相互の絆は、永久不滅であることを合い言葉に、少しでも支部会員の心の拠り所を目指し、努力を積み重ねたいと思います。

夕陽会ホームページの利用について

夕陽会ホームページはweb委員会により、刷新されてから4年が経過しました。現在まで、約23,000人の方からアクセスがありました。母校や同窓会の活動の様子、各支部の現在など最新の情報を夕陽会員の皆様に提供すべく、更新作業に努力しております。

夕陽会ホームページ の主な情報

会長挨拶、名称由来、教育精神、夕陽記念館、夕陽会の歩み
会員数、組織、規約、会旗、夕陽讃歌経過
母校90周年記念式典、支部・本部掲示板
本部・支部・支会だより、同期会だより、会報紹介、本部会報
渡島支部会報、函館市支部会報、歌のアルバム「讃歌、校歌、寮歌他」
母校の活躍、母校の今日、母校の歩み

映像あり、音楽ありとこれまで以上に豊富なコンテンツと母校への思いが深まる工夫が加えられています。ぜひ一度、アクセスしてみてください。

また、個人情報保護法の完全施行にともない、法令の趣旨を遵守し、広報活動の健全性を保つよう努めています。会員の皆様の御理解と御協力をお願いいたします。

<http://www.sekiyou2005.sakura.ne.jp/>

情宣部web委員会委員長 熊谷 光 洋 (昭和50年卒)

前納会費納入会員名簿追加分

徳成 達廣 更別 昭46

松宮 健治 函館 昭55

(平成二十一年三月二日現在)

夕陽会員計報

小林 貫二氏 昭15
室蘭市知利別町2の14の4の401
桃子氏

上野 輝三氏 昭32
函館市日吉町3の31の15
春江氏

吉田 隆司氏 昭28
函館市本通2の6の5
節氏

栗林 幸雄氏 昭34
函館市滝沢町10の2
キミ子氏

田村 一成氏 昭29
函館市美原2の44の6
千鶴子氏

西嶋百合太郎氏 昭13
函館市桔梗町52の20
きみ氏

吉野 勝子氏 昭39
函館市鍛冶1の51の7
弘文氏

(平成二十一年三月二日現在)

白山 康司氏 昭37
札幌市中央区北四条西14の1の6の1003
恵美子氏

金子(鴨井) 定利氏 昭12
帯広市西10条南14の18の1 金子様方
章氏

田畑 繁雄氏 昭10
函館市日吉町3の20の15
繁樹氏

大橋 功氏 昭32
函館市山の手2の38の1
覚氏

高橋 正雄氏 昭18
函館市市場町25の13
美代子氏

佐藤 仲廣氏 昭28
函館市陣川2の12の11
容子氏

平成21年度 本部総会・懇親会

期 日 平成21年6月20日(土)

会 場 函館国際ホテル
(函館市大手町16-9 ☎0138-23-6161)

- ・支部長会議 午後1時30分～
- ・総 会 午後4時～
- ・懇 親 会 午後5時30分～

前納会費制度

利用のお勧め

夕陽会本部通常会費の納入には、前納会費制度があります。ご退職された方は是非、この制度をご利用くださるようお勧めいたします。

前納会費納入会員は、会員名簿に納入者の○印を付して終身会員として、次のような特典が受けられます。

①記念品(人民蕃殖の白扇)の贈呈
その他不定期発行の記念品等の贈呈

②夕陽会報(年三回発行)と会員名簿(隔年発行)の本人への贈呈

③前納会員への加入切り替えを会報に通知掲載その他慶弔規定の適用
前納会費の額は、卒業年次により異なっております。

次の四段階になっております。

①大正年代の卒業生 五千元
②昭和年代の卒業生のうち昭和五十年までの退職者 一万元

③同じく昭和五十一年以降の退職者 二万円

④平成元年以降の退職者 三万円

ご希望の方は、本部(附属小学校内財政部担当)へご一報ください。振替用紙を送付いたしますので、簡単に手続きが済みます。

なお、函館市支部と渡島支部でも支部終身会員制度をとり、その推進・拡充を図っております。両支部とも終身会費は一万円であり、それぞれ特典があります。

編集後記

◆会報一九七号をお届けいたします。会員の皆様から玉稿や貴重なお写真をお寄せいただきましたことに紙面をお借りし厚くお礼申し上げます。

◆今号の表紙は、『トラピスト修道院』の冬の風景を捉えてみました。

トラピスト修道院は、カトリックの修道会の一つである厳律シトー会の修道院で、北斗市三ツ石(渡島当別)にある、灯台の聖母トラピスト大修道院の通称になっています。明治二九年にベルリオーズ司教の司式で修道院の開院式が開かれ創立されました。付近にある葛登支灯台にちなみ灯台の聖母修道院と名付けられたそうです。

童謡『赤とんぼ』の作詞者として知られる詩人の三木露風は三十代の初めの頃、院長の招きで、当院で文学論などの講師をしていました。

◆夕陽会創立九十周年の記念事業も終了して、各地での支部、ブロック活動が盛んになってきております。開催される予定の支部、ブロックは本部事務局に連絡をお願いいたします。

(情宣部長 伊勢 昭記 昭49卒)

本部事務局へのご連絡などは、次の所へお願いいたします。

041 0806 函館市美原3丁目48番6号

北海道教育大学附属函館小学校内

夕陽会本部事務局

夕陽会専用

電話番号(0138)34-55220

FAX番号(0138)34-55220

題字 文化勲章受章者 金子賢蔵(鶴亭)氏(昭4卒)